

## 勉強法の確認：小学校編

SRP 教育研究所

### ① 反復の重要性

国語でいえば漢字練習と音読、算数でいえば計算ドリル、これらの反復は重要です。創造性育成や問題解決能力重視の観点からこういった基礎の反復が軽視される場合もありますが、日本型の教育がこれまで持っていた力は、古来の「〇〇道」の習得に用いられたような基礎の反復によって維持されてきたのだと思います。斎藤孝さんの『声に出して読みたい日本語』や蔭山英男さんの「百ます計算」がブームとなっているのも、声に出すことや反復というこれまでの教育の持っていた「いい部分」が再評価されているからではないでしょうか。

ただしこれは、多くの進学校や進学塾が必死になってやっている「知識の詰め込み」とは全く異なるものです。反復によって定着させるべきものは、どの教科においても物事を理解したり自分の意見を発表したりするための「言葉」・「ペース」のみです。

さらに、ひとつ注意すべきことは「楽しくやる」ということです。お父さんお母さんと競争してみたり、目標をクリアしたら「夕飯のおかずは〇〇君の好きなものね」というようなご褒美を考えたり、親子で読み聞かせあうなど、「勉強ってつまらない」って思い込みを取り除くことが重要です。

### ② 原理習得の重要性

「分数同士のわり算ではどうして分数をひっくり返すの?」「この公式はどうしてこうなるの?」こういった疑問に答えてくれる先生はあまり多くないようです。授業で扱う内容が多すぎて、そのような声に1つ1つ答えるような余裕がないのだと思われます。しかし、この「どうして?」が、実は重要なのです。

学校・塾で教わるテクニックや公式には、確かに、その問題を解くための「物の考え方」が詰まっています。しかし、実際の受験においては公式をそのまま使える問題は出題されず、一步捻った問題がほとんどです。それに対しては、公式をただ当てはめるだけでなく、本質を理解し、時には自分で公式を作りかえることも必要になります。もし学校の先生がこのようなことを教えてくれないのであれば、我々のようなじっくりタイプの個別指導塾や丁寧な参考書に頼るのが良いと思います。

算数に限らず、「物の考え方」の筋道を学ぶことは大切です。国語の説明文がどんな順序で自分の意見を説明していくのか、社会科で物事の因果関係や歴史の変遷の仕方、理科では今の科学がどのように積み重ねられてきたのかなど、そこには算数と共通してくるような「物の考え方」が活かされます。学校教育も入試も（もちろん社会・企業も）、知識以上に「物の考え方」（＝論理的思考）を重視しているのです。

### 勉強法：国語（小学校）

- ① 漢字…反復練習が重要です。  
→ 学校などのテストで間違えたものは、何度も書いて覚えましょう。
- ② 文法…主語、述語、形容詞など文法に関するドリルを一通りやっておく。  
→ 文の成り立ちをよく理解しておく。  

特に「指示語（こそあど言葉）」・「接続語（つなぎ言葉）」は大切。 「指示語」ならその語がどこを指しているのか見つけられること。「接続語」ならその役割を理解したうえで、例文を作ってみる → 読解力の基礎
---
- ③ 音読…教科書などの文章は、最低、3回は音読をすること。誰かに聞いてもらうと、より効果的です。
- ④ 言葉…文章を読んで、分からない言葉はすぐ辞書を引く。手元に国語辞典を置いておくことは必須です。

### 勉強法：社会（小学校）

- ① マンガや映画で歴史のイメージをつかむ  
言葉だけ覚えているとすぐ忘れてしまうけど、絵や図や写真になっていると記憶に残りやすいし、教科書よりもすらすら読めます。  

小学館『まんが日本の歴史』シリーズ（全20巻） 児玉幸多・あおむら純 （池田先生のオススメ、世界の歴史バージョンもあります）
---
- ② 用語はイメージにあわせての繰り返し。  
用語は①のイメージにあわせて、穴あき式のワークで、何度か書いて覚えるのが良いと思います。
- ③ 地図になじみをもつこと。  
市販の地図や、イラストつきの小学生用の地図を見る癖をつける。
  - ・ クイズ形式で都道府県と県庁所在地を覚える。 Ex) 宮城県の県庁所在地は？
  - ・ 市販の絵地図帳で特産品や名物をみてる。 Ex) 千葉県の特徴は？

特に、②③は、中学校の社会科の勉強で威力を発揮します！

### 勉強法：算数（小学校）

小学校の算数では、「できる」「できない」や、テストの点数で判断しないで、「何でかな？」ということを考えてみるのが重要です。テストで間違っている問題の見直しはもちろん、合っている問題についても「合っているから良い」ではなく、何でそう答えたのかを一つ一つ見ていく必要があります。ただ、考えるのに慣れていない年代なので、親御さんや学校、塾の先生と一緒に考えられる場があるとより効果的です。

① 計算・・・ 計算を身につけていくうえで、2つのことが必要です。

まず1つは、計算練習などでその方法になれること。これには市販のドリルなどを活用するのが良いと思います。

そしてもう1つは、その計算の理由を考えること。なぜ、そのやり方で答えが求まるのかを考える必要があります。このいずれか片方だけでは、テストや日常での計算力が十分に身につけません。後者の理由を考えるには、小学校の算数辞典などを常に机に置いておき、分からないところは親御さんが読んで、かみ砕いて説明をすることをお勧めします。もちろん個別指導の活用も効果的です。

② 文章題・・・ 「答えは？」と聞くと、適当な数を答えて、それが違うとわかると、じゃあ「5」などという、答え方をする子どもさんが少なくないのですが、これは文章題として考えることができていない兆候です。

自分で問題を解くときには、答えが重要なのではなくて、どう考えたかを説明できることが重要なのであるということを、繰り返し伝える必要があります。そのために文章題はドリル形式ではなく、書店で見やすく、説明が多く詳しい問題集を一冊買って進めることをお勧めします。

### 勉強法：理科（小学校）

理科は教科書だけでなく、習ったことを日常生活・経験に結びつけることが重要です。身の回りで起こる出来事が、こんなに「理科で説明できるんだ」という感覚が身につくかどうかで、その後の理科の好き嫌いが分かります。

また、分からないことがあった時に、事典やPCなどの調べる環境があるかどうかも重要です。そして子どもの「何で？」という疑問には答え、もしくは一緒に調べること。これが小学生の理科の成績を上げる一番の近道です。

休みの日に、身近な科学をテーマにした「科学館」などに行くのも、効果的です。

お勧め： 小学・理科学習辞典 文英堂（シグマベスト） ¥2380